

ウラジオストク滞在に関する報告について（11月分）

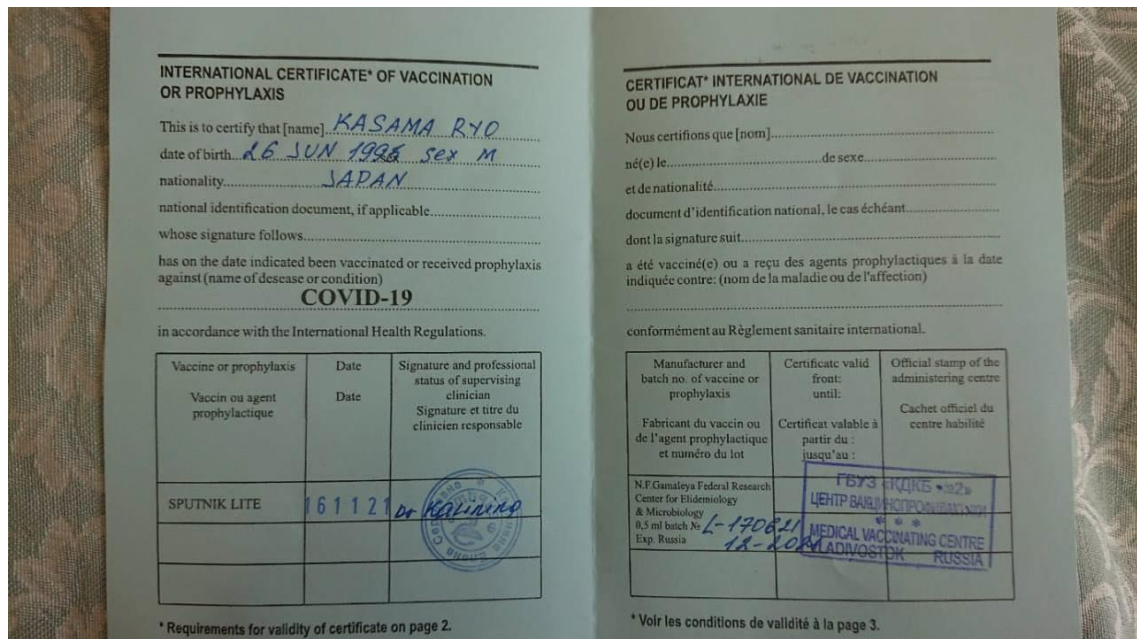
1. ウラジオストク国立経済サービス大学（ブグエス）での授業について

月	火	水	木	金
	会話・読解	文法・作文	会話・読解	文法・作文
			文法・作文	

週に3度ある文法・作文の授業は、1対1の授業で、基本的に教科書に沿って進められていきますが、授業冒頭に最近起こった出来事を話していると、時折授業そっちのけで、先生と議論に発展することがあります。領土問題、新型コロナウイルス、長期政権の功罪、労働観など、テーマは多岐に渡り、ロシアという国を理解する一助になっています。

2. 新型コロナワクチン「スプートニクライト」の接種

11月16日（火）、ウラジオストク市内の病院にて新型コロナワクチン「スプートニクライト」を接種しました。接種したワクチンは、2回接種が必要な「スプートニクV」よりも有効性は低いものの、1回の接種で一定の効果が見込めるとして政府が承認したワクチンです。沿海地方では、外国人が有料（1,100ルーブル＝約1,700円）でこのワクチンの接種が可能となっております。幸運なことに、接種後4～5時間後には全身に倦怠感が現れたものの、この他目立った副反応はありませんでした。



(写真1 接種後に発行されたワクチン接種証明書)

3. 元県費留学生ツィガンチュク・アナスタシアさんとの懇談

11月27日（土）、市内のレストラン「クラスト」にて、元県費留学生のツィガンチュク・アナスタシアさんとお会いしました。富山県では1992年度より、毎年、沿海地方から留学生を受け入れており、彼女は2019年4月から2020年3月までの1年間、

富山大学人文学部に留学生として在籍しました。現在は極東連邦大学で日本文化を専門に大学院生として在籍されています。富山からウラジオストクに派遣されている私とは正反対の体験をされている方で、富山とウラジオストクの類似点等、様々なご意見を頂くことができました。将来的には富山県で働くことを目指しているとのことで、できる限りサポートできればと思っております。

4. ロシア式サウナ「バーニャ」体験

ブグエスのロシア人学生や日本人駐在員の方々と一緒にロシア式サウナ「バーニャ」を体験しました。日本で人気のあるフィンランド式のサウナより室温が低い一方、湿度は高めになっています。また「ヴェーニク」と呼ばれる木の枝葉を水に浸して、全身をこの枝葉で軽く叩いてマッサージをすること（「ウスキング」と呼ばれます）もバーニャでは定番になっています。このウスキングをすることで血行が良くなると言われています。

日本で通っていたフィンランド式のサウナよりも室温が低めなため、長時間ゆっくりとバーニャを楽しむことができました。水風呂の代わりに海に飛び込む解放感は忘れられません。

ロシアでは、建物を時間単位で丸ごと借りて、合間に食事をしながら、建物の中に設置されているバーニャを楽しむことが多いそうです。



(写真2 バーニャを楽しむ筆者 (一番奥))

5. 市内観光「ソプカ・ブーラチカ」

現在、市内の主要な観光名所である「鷺の巣展望台」は工事中で閉鎖されていますが、先日新たな展望台が市内に生まれました。市中心部の高台から市内を見下ろす「鷺の巣展望台」とは違い、市中心部とは反対側の高台からの景色を楽しむことができます。



(写真3 展望台から見たウラジオストクの景色)

6. ウラジオストク市内の状況について

・治安状況

今月、当地で日本人が犯罪に巻き込まれたという情報はありません。

・市内の様子

10月のレポートで述べたとおり、沿海地方では、現在、ワクチン接種済の方に発行されるQRコードを提示しなければ、レストランや劇場やジム等各種施設に入店・入場できない規制が続いています。今のところ外国人にはこのQRコードの発行は認められておらず、ワクチン接種証明書や陰性証明書で代用することで入店・入場することができます。

一方で、上記の理由から沿海地方内のワクチン接種者数が急激に伸びており、その結果か、11月下旬にはワクチン接種証明書等の提示を求められる機会が少し減ってきた印象がありました。

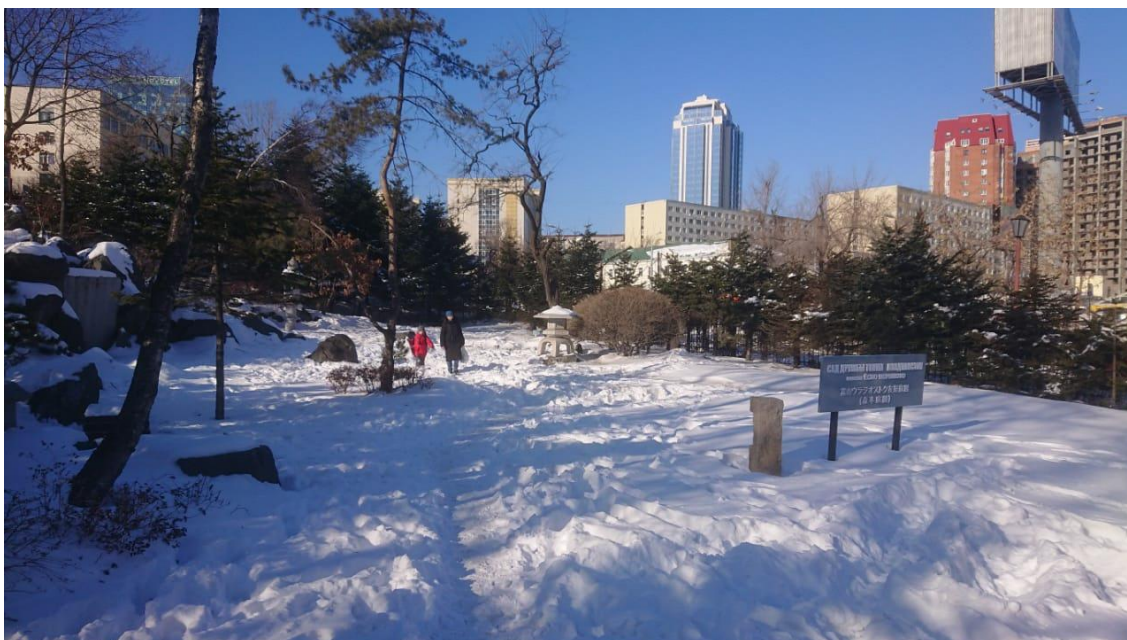
(参考) 沿海地方の新型コロナウイルス感染状況 (12月11日)

累計感染者数 93,079人 累計死者数 1,454人

1日の感染者数 463人 1日の死者数 6人

・気候

11 月末のウラジオストクは大雪に襲われました。雪害によって、慢性化している渋滞がさらに悪化し、市内の移動にかかる時間が通常の数倍以上かかったり、タクシーが大幅に値上げされたりと、市民の生活に大きな影響がありました。



(写真4 雪に覆われた日本庭園の様子)